

## d.血友病A用薬

エフラロクトコグアルファ

Efralococog Alfa

●イロクテイト(バイオジェン・アイデック)

静注用:250u,500u,750u,1000u,1500u,  
2000u,3000u.[特]a.長時間型:血液凝固第VIII因子Fc  
領域融合タンパク質製剤.

b.3~5日間隔の定期投与,週1回投与可.

c.投与量及び投与間隔を個別化又は週  
1回の定期的投与は,出血時投与に比べ  
年間出血回数が76~92%減少.

d.急性出血では87%が1回投与で止血可能.

e.von Willebrand因子を含んでいない.

[効]血液凝固第VIII因子欠乏での  
出血傾向の抑制

[用]添付液全量に溶解し,数分で緩液中に静注.

A:1回10~30u/kg.適宜増減.

B:定期的投与:

必要量(u)=kg×第VIII因子の目標上昇値  
(u/dL)×0.5[(u/kg)/(u/dL)]

(1u/kg投与で第VIII因子レベル2u/dL).

・1日目25u/kg,4日目50u/kgから開始

→状態に応じ1回25~65u/kg,  
投与間隔は3~5日で適宜調節.

・週1回65u/kg投与.

C: 

必要レベル	投与量
-------	-----

急性出血:重度 80~100% 40~50u/kg

軽~中等度 40~60% 20~30u/kg

大手術 80~120% 40~60u/kg

追加:8~24hr後,24hr毎

40~50u/kg

小手術 50~80% 25~40u/kg

[体内動態]半減期は19時間

(ルリオクトコグアルファの1.53倍).

2~5歳で11.5時間,6~11歳で13.2時間

12~18歳で16時間.

[注]1.第VIII因子インヒビターの発生

に注意→止血効果低下.

2.必要に応じ,第VIII因子レベルを確認.

3.在宅自己注射の管理

[患]1.妊婦には有益性&gt;危険性を判断.

2.授乳しない.

[副]5.5%)A重大:ショック,アナフィラキシー

D.倦怠感胸痛,冷感,熱感,頭痛,浮動性  
めまい,味覚異常,関節痛関節腫脹,筋  
肉痛,下腹部痛,上腹部痛,血管障害,高  
血圧,徐脈,処置による低血圧,咳嗽,発  
疹.